



## 自己実現のために!

### 日本経団連の調査

日本経団連では、平成16年4月19日に「21世紀を生き抜く次世代育成のための提言」を公表し、この中で大学に対し、学部教育の充実や専門教育を受け、動議付けにつながるカリキュラムの導入などを要請する一方、産業界も求める人材像を学生や大学関係者に明らかにするなどして、教育改革に協力することを表明しました。この中で、日本経団連は、企業がどのような点を採用の判断材料としているのか、また最近の学生をどう評価し、教育面で大学に對しどのような期待を持っているかを調査しました。

### 調査結果について

その調査において、『採用選考にあたる人物評価の基準と学生に対する評価』については、事務系では、「企業は、志と心」、「行動力」を非常に重要視して

います。「知力」は重視されているものの前二者に比べわずかに低い値になって

います。最も重視される点は、「行動力」のうち、「相手の意見や質問を踏まえた上で自分の意見をわかりやすく述べることが出来る能力」です。これは「コミュニケーション能力、またプレゼンテーションの能力といえるでしょう。次いで、「志と心」において、「新しいものに興味を持ち積極的に理解し取り入れようとする事ができる」です。これは、仕事に對する意識の高さであると考えられます。さらに、「行動力」においては、自ら立てた目標に向けて粘り強く努力した経験を持つが続いています。「知力」については、知識そのものよりも、論理的思考力や独創性を重視しています。

以上を踏まえると、企業は、「様々な情報(現状把握)をもとに自分なりの解決策を考え、他者の意見も取り入れながら方向性を決めていく能力」は、学生時代の勉学や様々な取り組みを通じて形成されると考えていると思われる

ます。

### キャリアセルフ・リライアンスの開発

現在、個人のキャリア開発を支援する「プログラムの」として、Career Self-Reliance(キャリア自律)が開発されています。これは、環境変化が大きく変化する中で、安定的な雇用関係が事実上難しくなってきたおり、個人は自己のキャリアを積極的に自己責任で取り組み、大学はそれを積極的にサポートする体制が必要であるということです。

### 進路支援センターはどう取り組んでいくのか

そこで、進路支援センターでは、これらの企業側の調査状況を基に、本センターが取り組まなければならないことは何かという事です。具体的には、3年次の実践的キャリア教育の強化、例えば、

エントリーシートの書き方、履歴書の書き方、面接のケーススタディ、マナー、適性試験対策などの対策です。さらに、4年間の大学生活を実りのあるものにし、希望する職業に就くために、早い段階(1年次)からのキャリア形成に力を入れていかねばならないと考えます。そのことは、低学年次からの職業観、勤労観をどのように醸成させていくか、そのために、1年次から、大学生活に一つの目標を持ち、そのゴールに向かって夢中に取り組むことこそが、自らのキャリア開発とも密接に結びついていくと考えます。

大学生生活で様々なことに取り組むことにより、困難・苦労・悩みなどにぶつかる。それをいかに克服し、解決に結びつけたかは、それが成功、失敗に関わりず、そのプロセスにおいて大きな成果となります。そして、企業側から見れば、学生のコンピテンシー(行動特性)を知る上で非常に重要な情報となり、企業の望む人材像となることは確かかなことです。(進路支援センター)